

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年8月13日
【四半期会計期間】	第69期第1四半期（自平成26年4月1日至平成26年6月30日）
【会社名】	株式会社 タカチホ
【英訳名】	Takachiho Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 久保田 知幸
【本店の所在の場所】	長野県長野市大豆島5888番地
【電話番号】	026(221)6677(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 渡辺 三千也
【最寄りの連絡場所】	長野県長野市大豆島5888番地
【電話番号】	026(221)6677(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 渡辺 三千也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第68期 第1四半期連結 累計期間	第69期 第1四半期連結 累計期間	第68期
会計期間	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成26年4月1日 至平成26年6月30日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高 (千円)	2,956,609	2,783,971	12,038,689
経常利益又は経常損失 () (千円)	41,354	69,216	58,450
四半期(当期)純損失 () (千円)	32,894	52,282	55,107
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	30,765	50,409	52,395
純資産額 (千円)	1,580,956	1,508,414	1,559,354
総資産額 (千円)	7,473,204	7,207,282	6,960,433
1株当たり四半期(当期)純損失 額 () (円)	5.26	8.35	8.81
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	21.15	20.93	22.40

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、関連会社が存在しないため、記載しておりません。

3. 第68期第1四半期連結累計期間及び第69期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

第68期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動は、ありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済再生政策や日本銀行による金融政策の浸透により円安・株高傾向が続き、景気は緩やかに回復基調にあります。しかしながら個人消費においては、4月の消費税率の引上げ後に消費の伸びは鈍化している状態にあります。加えて燃料価格の高騰、輸入原材料価格の上昇、電気料金の値上がりなどにより、個人消費マインドが低迷状態にあり、経済環境は依然として不透明な状況が続いております。

レジャー業界におきましては、円安の影響を受けて一部の観光地で外国人観光客の増加もみられましたが、観光シーズンのGWの前半が飛び石連休だったことや後半天候が良くなかったことなどから、人出の思わしくない観光地も多くみられました。

このような状況の下、当社グループでは、「改革へのチャレンジ」の年度スローガンに基づき、みやげ事業を中心に販路拡大策の実施や社内業務の改善に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,783百万円（前年同四半期比5.8%減）、営業損失は59百万円（前年同四半期は28百万円の営業損失）、経常損失は69百万円（前年同四半期は41百万円の経常損失）、四半期純損失は52百万円（前年同四半期は32百万円の四半期純損失）となりました。

セグメント別業績は次のとおりであります。

みやげ卸売事業

みやげ卸売事業は、当社及び当社子会社により地域の特色を生かした商品開発と当社開発のオリジナル商品群の提案による販路拡大を進めてまいりましたが、受注が伸びず、売上高は1,641百万円（前年同四半期比4.7%減）となり、営業利益は50百万円（前年同四半期比21.9%減）となりました。

みやげ小売事業

みやげ小売事業は、出店先大規模商業施設のリニューアル工事に伴い「軽井沢旬粋店」他1店の営業休止期間の発生がありました。その結果、売上高は378百万円（前年同四半期比15.4%減）となり、営業損失は36百万円（前年同四半期は32百万円の営業損失）となりました。

みやげ製造事業

みやげ製造事業は、当社や各地の当社子会社及び各観光地の取引先の地域性を生かしたオリジナル商品の開発と提案による積極的な生産活動に活動に努めてまいりましたが、受注が伸びず営業損失は8百万円（前年同四半期は8百万円の営業損失）となりました。

温浴施設事業

温浴施設事業は、各種イベントの企画・実施等や接客・サービスのレベルアップに努め、各施設のリピーター客の増加に努めてまいりましたが、来場者数が減少し、売上高は380百万円（前年同四半期比3.7%減）となり、営業損失は31百万円（前年同四半期は19百万円の営業損失）となりました。

不動産賃貸事業

不動産賃貸事業は、長野市内の「ショッピングタウンあおぞら」のテナント管理を中心に営んでおります。これらの賃料収入は27百万円（前年同四半期比0.2%増）となり、営業利益は9百万円（前年同四半期比3.1%増）となりました。

アウトドア用品事業

アウトドア用品事業は、シーズンに合わせたユーザー参加型のイベントの企画・開催によりお客様ニーズの発掘と購買意欲を喚起してまいりました。また、効率的な商品管理方法を推進致しました。その結果、売上高は181百万円（前年同四半期比13.0%減）となり、営業利益は14百万円（前年同四半期比4.5%増）となりました。

その他

その他は、長野市内においてギフト店等の運営が含まれ、催事・イベント等販売活動を積極的に推進してまいりました。その結果、売上高は173百万円（前年同四半期比12.3%増）となり、営業利益は11百万円（前年同四半期比9.3%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は2,831百万円となり、前連結会計年度末に比べ293百万円(11.6%)増加いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が129百万円、商品及び製品が148百万円、流動資産その他に含まれる繰延税金資産が35百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は4,375百万円となり、前連結会計年度末に比べ46百万円(1.1%)減少いたしました。これは主に有形固定資産が43百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、7,207百万円となり、前連結会計年度末に比べ246百万円(3.5%)増加いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は3,578百万円となり、前連結会計年度末に比べ283百万円(8.6%)増加いたしました。これは主に短期借入金が237百万円、支払手形及び買掛金が61百万円増加したことによるものであります。固定負債は2,120百万円となり、前連結会計年度末に比べ14百万円(0.7%)増加いたしました。これは主に長期借入金が14百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、5,698百万円となり、前連結会計年度末に比べ297百万円(5.5%)増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は1,508百万円となり、前連結会計年度末に比べ50百万円(3.3%)減少いたしました。これは主に四半期純損失52百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は20.9%(前連結会計年度末は22.4%)となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年8月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,275,000	7,275,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	7,275,000	7,275,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年4月1日 ~ 平成26年6月30日	-	7,275,000	-	1,000,000	-	-

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,016,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,234,000	6,234	-
単元未満株式	普通株式 25,000	-	-
発行済株式総数	7,275,000	-	-
総株主の議決権	-	6,234	-

(注) 上記「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式5千株(議決権の数5個)が含まれております。

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社タカチホ	長野県長野市大豆島 5888番地	1,016,000	-	1,016,000	13.97
計	-	1,016,000	-	1,016,000	13.97

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,026,527	996,066
受取手形及び売掛金	838,847	968,385
商品及び製品	506,551	654,618
原材料及び貯蔵品	77,991	81,462
その他	90,989	136,518
貸倒引当金	2,675	5,099
流動資産合計	2,538,232	2,831,951
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,261,680	1,224,776
土地	1,005,879	1,005,879
その他(純額)	345,982	339,370
有形固定資産合計	2,613,542	2,570,025
無形固定資産	120,499	115,560
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,035,055	1,037,504
その他	668,579	668,889
貸倒引当金	15,477	16,649
投資その他の資産合計	1,688,158	1,689,744
固定資産合計	4,422,200	4,375,330
資産合計	6,960,433	7,207,282
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	475,736	537,531
短期借入金	2,353,027	2,590,584
未払法人税等	30,232	17,469
賞与引当金	57,741	98,703
返品調整引当金	5,271	4,257
ポイント引当金	10,667	10,785
その他	362,217	319,005
流動負債合計	3,294,893	3,578,336
固定負債		
社債	200,000	200,000
長期借入金	1,419,317	1,433,788
役員退職慰労引当金	61,704	62,879
資産除去債務	330,696	332,494
その他	94,467	91,369
固定負債合計	2,106,185	2,120,531

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債合計	5,401,078	5,698,868
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	708,318	708,318
利益剰余金	46,254	6,558
自己株式	199,825	199,825
株主資本合計	1,554,746	1,501,934
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,607	6,480
その他の包括利益累計額合計	4,607	6,480
純資産合計	1,559,354	1,508,414
負債純資産合計	6,960,433	7,207,282

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	2,956,609	2,783,971
売上原価	2,234,876	2,110,682
売上総利益	721,732	673,289
販売費及び一般管理費	749,958	732,381
営業損失()	28,225	59,091
営業外収益		
受取利息	2,036	2,036
受取配当金	405	389
仕入割引	990	882
受取事務手数料	2,863	1,320
その他	2,267	3,082
営業外収益合計	8,563	7,711
営業外費用		
支払利息	18,214	17,231
その他	3,478	605
営業外費用合計	21,692	17,836
経常損失()	41,354	69,216
特別利益		
固定資産売却益	500	-
特別利益合計	500	-
特別損失		
固定資産除却損	813	-
特別損失合計	813	-
税金等調整前四半期純損失()	41,667	69,216
法人税、住民税及び事業税	20,345	15,862
法人税等調整額	29,118	32,797
法人税等合計	8,773	16,934
少数株主損益調整前四半期純損失()	32,894	52,282
四半期純損失()	32,894	52,282

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	32,894	52,282
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,129	1,872
その他の包括利益合計	2,129	1,872
四半期包括利益	30,765	50,409
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	30,765	50,409
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

三菱UFJリース株式会社を被保証者として、平成33年12月末までの事業用土地の賃借人としての賃料(現行月額1,942千円)の支払等一切の債務について、当該土地の賃借人に対して連帯保証を行っております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
減価償却費	71,205千円	69,040千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	12,516	2.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	資本剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント							その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	みやげ 卸売事業	みやげ 小売事 業	みやげ 製造事 業	温浴施 設 事業	不動産 賃貸事業	アウトドア 用品事業	計				
売上高											
外部顧客への 売上高	1,723,108	447,879	-	394,877	27,731	208,225	2,801,822	154,787	2,956,609	-	2,956,609
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	59,313	-	126,868	-	6,000	-	192,182	105,624	297,806	297,806	-
計	1,782,422	447,879	126,868	394,877	33,731	208,225	2,994,004	260,411	3,254,416	297,806	2,956,609
セグメント 利益又は 損失()	64,609	32,387	8,425	19,959	9,094	14,021	26,952	10,387	37,340	65,566	28,225

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ギフト事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント							その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	みやげ 卸売事業	みやげ 小売事 業	みやげ 製造事 業	温浴施 設 事業	不動産 賃貸事業	アウトドア 用品事業	計				
売上高											
外部顧客への 売上高	1,641,950	378,971	-	380,213	27,775	181,192	2,610,103	173,868	2,783,971	-	2,783,971
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	49,739	-	110,424	-	6,000	-	166,164	102,348	268,512	268,512	-
計	1,691,689	378,971	110,424	380,213	33,775	181,192	2,776,267	276,216	3,052,484	268,512	2,783,971
セグメント 利益又は 損失()	50,489	36,514	8,673	31,074	9,377	14,648	1,747	11,352	9,604	68,696	59,091

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ギフト事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純損失金額()	5円26銭	8円35銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	32,894	52,282
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	32,894	52,282
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,258	6,258

(注)潜在株式調整後1株当たりの四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8月12日

株式会社タカチホ

取締役会 御中

清陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 大河原恵史 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木智喜 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社タカチホの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社タカチホ及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。